
「ありがとうのメッセージ収集プロジェクト」
 ～京教に来られてよかったこと 2012～

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの目的とその概要

“身近なことへのありがとうの気持ち”に目を留め直す切っ掛けがほしい！そんな願いに応えるべく、私たち Kyo²みつばち隊は体験談集『京教に来られてよかったこと 2012』を作成致しました。またこの他にも、島田妙子先生による講演会「幸せって なんだっけ？～生きていることに、『ありがとう』って いてほしい～」を企画致しました。

なぜこれらの取り組みを京都教育大学で行ったのかといえば、何よりもまず教員を志望する学生たちに「ありがとうのメッセージ」に敏感になって欲しかったからです。それらのメッセージに目を向けることで、たとえ忙しい時でも優しい心を持った自分を取り戻せるのではないかと思いました。子どもたちを大切にす教育も、まずはそこから始まるような気がします……。

そのような力を養うための試みとして、私たちは上記の二つの活動に取り組むことに致しました。そうして生まれたのが、本プロジェクト「ありがとうのメッセージ収集プロジェクト～京教に来られてよかったこと 2012～」です。

2. 代表者及び構成員

・代表者

中川 剛成 国語領域専攻 4 回生

・構成員

森戸まどか 国語領域専攻 4 回生

三宅 陽介 社会領域専攻 4 回生)

飛弾 圭佑 発達障害教育専攻 4 回生

調子 絢香 理科領域専攻 4 回生

池 理水 社会領域専攻 2 回生

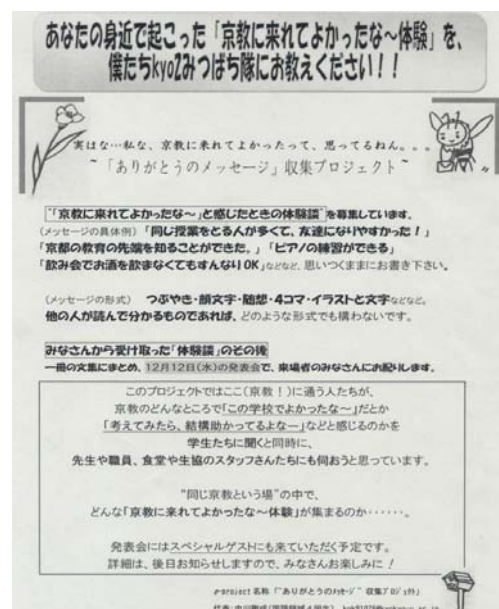
3. 助言教諭

寺田 守先生 (国文学科)

第2章 内容や実施経過など

1. アンケート実施 (7 月～11 月)

2012 年 7 月から、学生・卒業生・教職員・生協や清掃スタッフの方々などにアンケート調査を行い、「京教に来られて、よかったなあ～」という思いを募集し始めました。



(学生たちに配布したビラ)

2. 体験談集作成 (11 月)

集まったアンケートを編集して、体験談集『kyo²みつばち隊からの贈り物～京教に来られてよかったこと 2012～』を作成しました。アンケートの内容は様々でしたが、大別すると「人との出会い・つながり系」「自然系」「大学の施設」「その他」となりました。

3. 講演会準備 (10 月～12 月)

大学の授業や正門前でのビラの配布・友人たちへの宣伝・ポスターの掲示などの広報活動を行いました。

4. 講演会 (12月12日)

なまえ: Kyo²みつばち隊からの贈り物

とき: 12月12日(水)

場所: 本学 大講義室1

プログラム: (当日は20分繰り下がりで行いました。)

① 13:00~13:20

Kyo²みつばち隊の活動報告「京教に来られて、よかったって、思ってるねん。。～ありがとうのメッセージ収集プロジェクト～」

(説明)

これまでの Kyo²みつばち隊の活動を報告しました。また、みなさまから頂いたアンケートの中からいくつか抜粋して、メンバーのコメントと共に紹介しました。

② 13:20~15:20

島田妙子先生講演会「幸せって なんだっけ? ～生きていることに、『ありがとう』って いてほしい～」

(説明)

島田妙子先生を講師としてお招きしました。島田先生との出会いは、2011年の11月に大阪で開かれた講演会です。その時、先生が言って下さった「…………呼んでくれたら、大学でも講演させてもらうよ?」という言葉は、本プロジェクトが動き出す切っ掛けとなりました。

島田先生は子どもの頃、継母と実父から虐待を受けておられました。しかし、今では、それらを克服し、児童虐待の無い明るい社会を目指して、「大人の心が元気になれば、子どもの心も元気になる!」を合言葉に精力的に講演活動をされておられます。「日々、生きていることに感謝する」これが、島田先生が見出された「幸せに生きる秘訣」でした。

島田先生の講演会を本学で開くことで、体験談集の作成・配布とは違った角度から、「ありがとうの気持ち」の大切さを学生たちに訴

えかけることができると思い、本講演会を企画しました。

③ 15:20~15:40

アンケート記入の時間

→体験談集配布(ご自由にお持ち帰り。)

(説明)

島田先生の講演会に対して、また Kyo²みつばち隊の活動に対してのアンケートを書いて頂きました。(後日受け取らせて頂いたアンケートもあります。)

～Kyo²みつばち隊からの贈り物～

e-project

島田妙子先生による講演会のご案内
「幸せって なんだっけ?～生きていることに、『ありがとう』って いてほしい～」

- とき: 12月12日(水) (12時30分開演)
- ところ: 京都教育大学 大講義室1 (C棟2階)
- 定員: 336名(先着順) 本学の学生がメインですが、一般の方も大歓迎です!!
- アゲル: <参加費無料>

①13:00~13:20 Kyo²みつばち隊の活動報告
「京教に来られて、よかったって、思ってるねん…
～ありがとうのメッセージ収集アゲル!～」

②13:20~15:20 島田妙子先生による講演会
「幸せって なんだっけ?～生きていることに、『ありがとう』って いてほしい～」

③15:20~15:40 質疑応答&アンケート記入の時間

●島田妙子先生のご紹介:

“受けてきた虐待の体験を人のために役立てたい”
そんな思いから「大人の心を助ける」講演活動を始めた。育児や介護、DVD制作の会社経営をこなしながら、ドキュメンタリー出演や多方面で講演をされている。
●アゲル: くるくるアゲル 幸せを伝える、web配信「覚悟の瞬間」
●TV出演: MBS毎日放送「ドゥワガレ」12月
NHK大阪放送局「かんさい熱視線」

◎～Kyo²みつばち隊について～
Kyo²みつばち隊は、「京教に来られて、よかったよ～」という想いを求めて学内を飛び回り、学生や教職員、卒業生、食堂・購買などのおばちゃんおじちゃんたちにアンケート調査を行いました。その成果をまとめたものが、本イベントで配布させて頂く体験談集「Kyo²みつばち隊からの贈り物」です。そして、本講演会には「感謝して、日々を生きていく喜び」を「お!」と推進しておられる島田妙子先生をお呼びすることに致しました。みなさま、どうぞご期待ください!
問い合わせ「ありがとうのメッセージ収集アゲル!」代表 中川麻衣 koi91070@kyokyo-u.ac.jp
(注意: 学内の駐車場は使用できませんので、公共交通機関でお越し頂くことをお勧め致します。)

(講演会のビラ)

第3章 結果や成果など

1. アンケートについて

2012年7月から「京教に来られてよかったこと」を何うアンケートを配布し始め、全部で442個のアンケートが集まりました。大学の規模が小さいからこそその出会いの多さ、関わり方の深さといった「人とのつながり」を挙げておられる方が最も多く、次いで「緑が多い。四季折々

のキャンパスである。」といった京教の自然に関する回答も多かったです。「施設」に関しては、ピアルッス室の居心地がよいと感じている学生が多いようでした。

2. 体験談集について

体験談集には、300弱のアンケートを掲載させて頂きました。その他にも、プロジェクトの目的や経緯やアンケートから分かった“京教のいいところ”などに加えて、島田先生が寄稿して下さった「Kyo² みつばち隊との出会い」も掲載させて頂きました。

【回答頂いたアンケートからの抜粋】

- 猫が可愛い（多かった意見）
- アットホーム（多かった意見）
- 蚊に刺されるが、そのことで話題が広がる。（学部4回生）
- たのしい。（学部2回生）
- 学生との距離が近いので、学生と気軽に会話ができてよい。時々学生をからかうことでストレスの発散ができる。（教職員）
- 日中は学生との会話。夜中は野生のキツネ、タヌキ、ウツバシとの出会い。（警備員）等々。

3. 講演会について

参加者は十数名という少なさでしたが、島田先生の心励まされるお話だけでなく、飛び入り参加のシンガーソングライター tomoko さんの歌声と落語家白舟さんのお話も何う事ができました。

以下、参加者のアンケートの抜粋を掲載致します。

【島田先生の講演会に関して】

- 学校の先生の役割について考えさせられました。中学での一人の先生との出会いによって虐待が終わったという話、感動的でした。でも、裏を返せば、他の先生は気づかなかった。あるいは、気づいても助けることができなかつたのだと思います。子どもが自分から打ち明けてくれない中で、どれだけ気づける

か。家庭で十分な愛情を注がれていない子どもにも、学校だけは、ほっとできる空間であってほしいと強く感じました。

●中2の時の担任の先生（27歳）の「いじめは許さない」というメッセージや、保護者対応は、教師の姿として学ぶべきだと感じます。島田先生の「子どもの様子がおかしかったら、親を助けに！」という言葉が印象的でした。そのためにも普段の泣き声を知ることで、異常が分かるという関わり方に、なるほどと思ひ、納得しました。

●心も身体もとても痛く、悲しみが流れ出して来そうな虐待の思い出を語るのには、とても勇気と強さが必要な事だと思ひますが、先生のお話からは、つらさよりも前に向かう明るいエネルギーのような力が感じられました。

●トコさんの歌も、その歌詞の背景や込められている気持ちを聞いた上で聴くと、より一層心に響きました。白舟さんのお話も、僕知らない世界のお話で、とても良かったです。素敵な時間でした。

●tomokoさんの“灯”という歌は今回初めて聴かせて頂きました。人と人との出会いと成長の喜びを思い出させてくれる素晴らしい歌でした。母親への応援歌という趣でしたが、大人たちもみんな、最初は赤ちゃんだったんだと思うと、大人たちに対しても優しくなれる気がしました。白舟さんのお話は、落語の世界へ引き寄せられた理由が特に感慨深かったです。自分のこれからの歩みに必要なものと出会えたとき、勇気を持って、その世界に踏み込んでいきたいと思ひました。

【Kyo² みつばち隊の活動に関して】

●体験談集を面白く読まさせて頂きました。今回、講演の参加者は少なかつたですが、共有する熱いものが感じられ、良かったと思ひます。

●みつばち隊の皆さんの取り組みは、日々の生活の中にある誰かの優しさや、自然の恵みに気づき、感謝する、とても良い機会になったと思います。いただいた冊子も学生さんから職員の方々まで幅広く、思わず「ぶっ!!」と笑ってしまうものから、じ〜んと感動してしまったコメントまであり、読んでいて楽しい気持ちになりました。

●おつかれさまでした。e-プロ発表会に向けてがんばってください。

●やさしい、ほわ〜んとしていて、気持ち良いです。あたたかさが伝わって来ます。

●1年間のプロジェクト活動、お疲れさま！充実したかけがえのない経験となったことでしょう。メッセージ集も在学生、OB、OG、教職員など心温かい京教大ファミリーの良さを改めて共感させられました。

第4章 まとめや反省、同様の企画をする際の留意点など

1. まとめや反省

今回の企画では、多くの方にアンケートに協力して頂き、その結果を体験談集という形で、お返しすることができました。

体験談集をお渡しした際には、笑顔で、「京教いいよね。」「こんな企画していたんだ。」などと、声をかけてくださる方もおられ、私たちの誰しもが身近に感じる京教に場を設定したのは良かったのではないかと感じています。

ただ、「イベントの集客」には課題が残りました。正門や西門でのビラ配り、ポスターの掲示、知人友人への個人的な声かけ等を行いました。が、人をあまり集められませんでした。バイト・サークル・ゼミナ・他の活動の集会などが重なった人たちが多かったのも、水曜日の午後ではなく、平日（例えば金曜日）の5時間目の時間

帯などにイベントの日程を設定した方がよかったのかもしれませんが……。

2. 同様の企画をする際の留意点など

同様の企画（アンケート調査・イベントの企画）をする際の留意点としては、次の三つを挙げようと思います。その三つとは、「アンケートの取り方」と「イベントの企画」、そして「メンバーとの関わり方」です。

まず「アンケートの取り方」に関して。アンケートをしたということは、「相手の貴重な時間を頂いた」（相手の仕事を増やした）ということでもあります。回答の有無に関わらず、アンケート調査に関わって下さった方たちへの敬意が心の中にあることが、アンケートを取る際の留意点だと思います。

次に「イベントの企画」に関して。自分たちにとっては一押しイベントであっても、興味を持ってくれる人がいなければ人は来ません。そのためには、相手の立場から自分たちの企画を見つめる必要があります。そうすれば、イベントの適切な日程や強調すべき情報なども見えてくると思います……。そして、たとえ参加者が少なかったとしても、会場に来て下さった方たちを心から大切にすること。それが、イベントを企画する際の留意点だと思います。

最後に、「メンバーとの関わり方」に関して。学校の授業や部活・サークル、教師採用試験や大学院入試など、忙しい時期には無理をしないことです。「無理はしない。けれども、自分たちにできることを、自分たちにできる範囲で、精一杯やる」ということをメンバー同士の共通認識とすること。そして、プロジェクトの代表者はメンバーの自主性を最大限尊重すること。それらが、「メンバーとの関わり方」の留意点だと思います。